

一般社団法人画像診断研究・振興・普及協会

平成 25 年度（H25. 1. 1-12. 31）事業報告書

当法人は平成 22 年 3 月 1 日に設立された。当法人は、画像診断の研究や支援を通して画像診断の普及を図る活動を行い、もって学術及び科学技術の振興に寄与することを目的とし、その目的に資するため、次の事業を行うことを定款に謳っている。

1. 画像診断の研究開発事業およびその研究成果の臨床応用を支援する事業
2. コンピュータやネットワークによる画像診断支援技術の研究開発事業及び臨床導入を支援する事業
3. 画像診断支援技術を用いた画像診断を提供する事業及びそれを支援する事業
4. その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

平成 25 年度の事業内容概観

研究事業に関しては「コンピュータ支援診断技術の開発促進のための統合型読影支援環境の実用化に向けた実証研究」の継続として、コンピュータ支援診断（CAD）入力に対する読影医からのフィードバックを援助した。CAD を用いることによる読影報告書品質の向上が得られるであろうことを考えて、今後も継続する予定である。また今年度より CAD 開発に関して東京大学医学部放射線科との共同研究を開始し、さらに画像診断の研究促進のために東京大学に対して寄付を行った。

遠隔画像診断支援業務では平成 25 年度から大腸 CT の遠隔読影支援を開始している。業務自体の積極的な拡張は行っていないが、主に既存診療所の件数の増加分により遠隔読影件数は 12347 件から 15763 件と 28% 増となっている。

平成 25 年度の事業内容は下記のとおりである。

1. 画像診断の研究開発事業およびその研究成果の臨床応用を支援する事業
 - 画像診断研究やその臨床応用の研究のために合計 600 万円を寄付（東京大学、研究者 2 名）。
2. コンピュータやネットワークによる画像診断支援技術の研究開発事業及び臨床導入を支援する事業
 - 東京大学と 1 年間の共同研究契約「コンピュータ支援検出／診断の開発研究および臨床応用」を締結。研究経費は総額で 330 万円。
 - 大学病院と市中病院の間の画像診断支援に関する共同研究を支援する事業。
 - 株式会社 JMAC と東大病院放射線科、株式会社イーサイトとともに経済産業省の研究支援事業に「コンピュータ支援診断技術の開発促進のための統合型読影支援環境の実用化に向けた実証研究」の継続。
3. 画像診断支援による営利事業
 - 遠隔画像診断支援：1 病院が新規。1 病院、2 病院を継続中。
 - 1 病院の撮像技術指導を 2010 年より継続中。
4. その他事業
 - 該当事項なし。

以上。

文責：林直人